

# 歴史と文化を生かした川のあり方



研究第三部 主任研究員 大手 俊治

平成9年の河川法の改定により「河川環境の整備と保全」が河川法の目的に位置づけられた。河川環境はそれぞれの河川及び流域の特性、自然環境、社会環境文化及びそれらの歴史的な経緯から成り立っている。本調査研究は、河川環境の要素である川に関する歴史や文化の把握方法を示すとともに、それらの歴史・文化要素を今後の川づくり（河川の整備や管理）更に地域づくりに役立てていく方向性を検討するものである。

現在検討されている事項を以下に示す。

「歴史と文化を生かした川づくり手引き書」策定

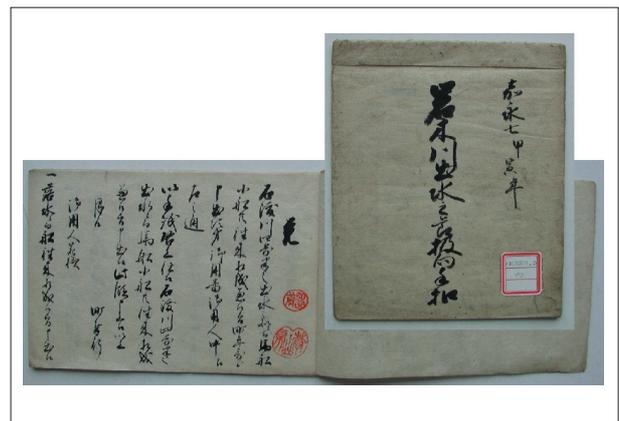
本手引き書は河川の歴史・文化の把握手法を主に示し、菊池川・旭川・岩木川、奥入瀬川をモデル河川として、各河川の歴史・文化を把握し、活用方策を検討するものである。

「第二次河川技術五ヶ年計画」の策定

重点技術開発項目として「歴史・文化特性への配慮」が取りあげられ分科会において歴史・文化特性に配慮した川づくりの為に技術を検討している。

検討項目は、歴史、文化特性を活かした河川計画手法の開発、伝統河川技術の活用である。

計画手法の内容は、河川構造物や地域の歴史文化特性の抽出評価や歴史的景観の復元保全手法の開発等である。伝統河川技術の活用は、伝統工法導入のガイドラインの検討や雄物川、阿賀川、富士川、筑後川をモデル地区とした懇談会の設置やラオス国メコン河侵食対策調査などの発展途上国への技術支援を行っている。



「岩木川出水之節扱向手控」(江戸時代の洪水対策マニュアル)

## 菊池川流域における地域連携・活性化について



企画・広報部 参事 今泉 浩史

菊池川は、熊本県阿蘇郡深葉山に源を発し、阿蘇外輪山の渓流を集め菊池市、山鹿市等を流下した後に、玉名市において有明海に注ぐ熊本県最北端の一級水系である。

流域は3市16町2村で構成され、流域内には菊池渓谷、多くの温泉、山鹿灯籠まつり等の観光資源があり、江田船山古墳（国指定重要文化財）等数々の歴史的遺跡も分布する。長年にわたる川と地域との関わりを通して育まれてきた特有の文化と風俗は、現在も地域の人々の財産になっている。

しかし、近年は、住民の川に対する関心が希薄になり、各種活動グループはあるものお互いの連携と盛り上げに欠けているなど流域の抱える課題も多い。また、観光面でも停滞気味であり、流域に人を呼ぶための活性化施策が求められている。

このような背景のもと、『ガイドブックの作成』『流域連携懇談会を通じた地域連携の強化』を柱とする菊池川流域における地域連携・活性化の検討を行った。

ガイドブックは、次代を担う子ども達に菊池川流域の自然・歴史・文化等を知ってもらうことにより地域への関心を高め、また、子ども達を通して地域の人々のつながりを深めることを目的に作成し、小学校で実施される「総合的

な学習の時間」における環境学習に役立つものを目指した。検討にあたっては学識経験者、現役の小学校教諭等から構成される研究会を開催し、教育現場等から多様なアイデア、意見等を頂いた。完成したガイドブックは、平成14年度に配布される予定であり、今後、実際の活用を通して更なる改善が図られることになる。

一方、流域全21市町村のうち菊池川直轄管理区間沿川の7市町により構成される「流域連携懇談会」については、首長の集まりと若手職員の集まりの計2回が開催され、各々の立場から地域連携・活性化のための施策、意見、要望等が出された。集められた施策等はハード・ソフトに分類し、内容の検証、課題の把握等を行い整理した。当懇談会は平成14年度も開催の継続が予定されており、河川にこだわらない流域全体の施策の提案とその実現化に向けての検討が行われることになる。